（別紙様式３）

令和３年３月 29 日

研究開発完了報告書

文部科学省初等中等教育局長　殿

住所　　神奈川県横浜市中区日本大通１
管理機関名　　神奈川県教育委員会
代表者名　　教育長　桐谷　次郎

令和２年度地域との協働による高等学校教育改革推進事業に係る研究開発完了報告書を、下記により提出します。

記

１　事業の実施期間
令和２年４月２０日（契約締結日）～　令和３年３月３１日

２　指定校名・類型
学校名　　神奈川県立山北高等学校
学校長名　　藤田　正樹
類型　　地域魅力化型

３　研究開発名
未病・防災～高齢者比率４割の町で高校生が挑む少子高齢化

４　研究開発概要
教育課程の中心に総合的な探究の時間を中心として据え、地域課題に係る問題解決学習に取組む。探究の手法を学び、コンソーシアムの協力を得ながら地域課題を探究し、検討した課題解決方法を自治体に提案、実現を目指すことにより、地域人材の育成を図る。
また、学校設定教科・科目を設置し、外部機関と連携を図る教育を展開する。

５　学校設定教科・科目の開設，教育課程の特例の活用の有無
・学校設定教科・科目　　開設している　　・　　開設していない
・教育課程の特例の活用　　活用している　　・　　活用していない

６　運営指導委員会の体制

氏　名	所属・職	備考
石田　浩二	山北町教育委員会教育長	行政関係機関の長
羽入田　眞一	早稲田大学教職大学院客員教授	学校教育に専門的知識を有する者
小村　俊平	日本イノベーション教育ネットワーク事務局長	学識経験者

7　高等学校と地域との協働によるコンソーシアムの体制

機関名	機関の代表者
山北町	町長　　湯川　裕司
国立教育政策研究所教育政策・評価研究部	部長　　渡辺　恵子
有限会社小田原ドライビングスクール	社長　　秋山　実
株式会社ベネッセコーポレーション	営業本部長　　吉野　隆弘
相日防災株式会社	社長　　黒澤　麻志
山北町観光協会	会長　　佐藤　精一郎
山北町商工会	会長　　松澤　大輔
ＪＡかながわ西湘山北支店	支店長　臼井　範雄
山北町都市農村交流活性化推進協議会	会長　　山田　肇
総合型地域スポーツクラブ松田ゆいスポーツクラブ	理事長　松下　朗大
一般社団法人南足柄みらい創りカレッジ	代表理事　　樋口　邦史

8　カリキュラム開発専門家、海外交流アドバイザー、地域協働学習支援員

分類	氏名	所属・職	雇用形態
カリキュラム開発専門家	後藤　健夫	ﾌﾘｰｼﾞｬｰﾅﾘｽﾄ	都度雇用
地域協働学習支援員	加藤　陽一郎	開成町教育委員会　教育指導専門委員	都度雇用
地域協働学習支援員	高杉　光男	山北町　農業委員	都度雇用
地域協働学習支援員	藤原　浩	山北町　都市農村活性化協議会事務局長	都度雇用
地域協働学習支援員	唐牛　彩花	山北町商工会　経営支援担当職員	都度雇用

9　管理機関の取組・支援実績

（1）実施日程

業務項目	実施日程											
運営指導委員会関連	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
				○								○
地域協働学習実施支援員関連	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
					○	○	○	○	○			○

（2）実績の説明

①　管理機関による事業の管理

○　担当者と管理職で常時情報を共有するとともに、取組状況を把握し指導、助言を行った。

（ア）カリキュラム開発専門家の配置

・　学年会議、コンソーシアム連絡会議への出席や事業参観後の進捗状況等に関する協議に参加し、本事業全体の監修と教育課程全般について助言を行った。

（イ）地域協働学習実施支援員の配置

・　校内の企画及び学年会議、コンソーシアム連絡会議等に参加。外部人材、団体（学校関係、地域住民関係、企業関係）の活用に向けて調整を行った。

・　随時、学校と外部団体とのフィールドワークについて打合せを実施した。

・　授業に参加し学習に関わる「学びの場」を提供するための連絡調整を行った。

②　管理機関による主体的な取組

・　「未病」「地域防災」に関する生徒の探究活動に係る本県担当部署及び企業との連絡・調整を行い、高校の事業の推進を図った。
・　山北町に対して、地域協働学習実施支援員の配置に関する人的支援の継続を依頼した。
・　学校設定教科・科目の設定及び有効な活用方法について、指導助言を行った。
・　事業に係る定数加配により教員１名を加配した。
・　会計処理や校内整備、校外各団体との連絡調整を担当する非常勤職員１名（29 時間/週）を、事務業務支援員として配置した。
・　「SDGｓ」「未病」に関する探究活動の生徒発表を各学年で複数回実施した。また、３月下旬に地区全体での成果発表会を設定し、事業の取組実績を県内他校へ示す予定である。

③　事業終了後の自走を見据えた取組について
・　事業終了後の非常勤職員等の支援について、所管課と継続的に協議を行っている。
・　事業終了後を見据えた山北町との連携について、継続して調整を行っている。

１０　研究開発の実績

（１）実施日程

業務項目	実施日程											
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
「総合的な探究の時間」の活用	すべての「総合的な探究の時間」を研究開発に充当											
コンソーシアムにおける研究開発							１回					○
研究成果報告･事業成果の作成及び検証	１回	２回							３回			
専門家等アドバイザーとの協働によるカリキュラム開発					１回	２回	３回	２回	１回			○

（２）実績の説明

①　研究開発の内容や地域課題研究の内容について

○　総合的な探究の時間の取組＜１学年＞
・　「山北」「未病」「地域防災」の３単元に分けてグループ学習を実施、最終週ではクラス内で各グループによる成果発表会を実施した。
・　「山北」については、夏季休業中に「自分の住む地域の課題とその解決策」についての調べ学習をグループごとに実施、夏季休業明けに各クラスで発表した。２学期には、「地域経済分析システム(RESAS)」を用いて山北町の産業等について調べ、町の魅力や課題について分析するとともに、活性化のための手立てをグループワークで考察し、成果発表会を実施した。
・　「未病」については、「未病という概念をどのようにして他者に伝えるか」ということについて発表媒体をグループワークで考察し、成果発表会を実施した。
・　「地域防災」については、「やさしい日本語」、「DIG 研修」、「応急手当」の３つの単元に分けてグループワークを行い、グループでの発表会を実施した。
・　山北町都市農村交流活性化推進協議会の協力の下、体験プログラム（「森林セラピー」「農業体験」「生涯学習センターにおける体験学習」）すべてを巡るフィールドワークを実施し、「気づいたこと・興味を持ったこと」「山北町の魅力」「山北町の課題」「課題の解決策」の４項目についての学習成果をポートフォリオ課題として配信・回収した。

○　総合的な探究の時間（以下、「未来探究」）の取組＜２学年＞

・　生徒一人ひとりが「My プロジェクト」を持ち、課題解決に向けた学習を推進した。

・　それぞれの My プロジェクトを６カテゴリー（①住みやすい町、②人口減、③高齢化・医療福祉、④特産品、⑤地域活性・魅力化、⑥観光・集客）に分け、ゼミ形式で学習を展開した。

・　My プロジェクトに関するフィールドワーク（11 月 14 日）を、県西地域全体を学びの場として実施した。なお、事前指導では外部講師を招いて実施した。

・　My プロジェクト発表会（３月実施予定）に向けて準備中である。

○　学校設定教科「あしがら」、科目「未病」「地域防災」の選択で実施＜２学年＞

・　「未病」では、「東洋医学コース」「未病普及コース」の２コースから、「地域防災」では、「DIG コース」「HUG コース」「酒匂川未来コース」の３コースから選択させ、実施した。

・　未病の学習で、総合型地域スポーツクラブ松田ゆいスポーツクラブと協力し、地域の幼児、児童とその保護者（約 30 名）を対象に、未病に関わる地域イベントを開催した。

・　「未病」、「地域防災」のコース別発表会を実施した。（12 月 17 日）

○　地域協働学習に関わる校内発表会・講演（２月４日）

・　地域課題の解決に向けて、より実践的なプロジェクトである 12 チームによる代表発表とした。（各クラスで事前に収録した動画にて視聴、教員は観点にて各発表を評価。）

・　露木志奈氏（環境活動家）によるオンライン講演会（テーマ「今、世界中で何が起きているのか　～私たちだからできること～」）を実施した。

②　地域との協働による探究的な学びを実現する学習内容の教育課程内における位置付け

○　１学年では、１単位であった「未来探究」の充実を図り、２単位に増単して設置した。

・　前年比１単位増加により、先行的に「山北」を学習、２学年で学習する「未病」「地域防災」についての導入的な学習の充実を図り、適切な科目選択に資した。

○　２学年では、学校設定教科「あしがら」に学校設定科目「未病」、「地域防災」（２単位）を、解決実践に向けてのプランを作成するため、「未来探究」（１単位）を設置した。

・　「未来探究」のゼミナールで専門的な学びを深め、探究活動を進めた。

○　令和３年度３学年では探究活動のまとめとして成果発表及び政策提言を実施する予定である。

③　地域との協働による探究的な学びを取り入れた各科目等における学習を相互に関連させ、教科等横断的な学習とする取組について

○　教科横断的な授業計画を学校全体の取組として体系化し、各教科が情報を共有した。

○　様々な教科で課題解決したことを活用できる教科等横断的な探究活動を実施していくために、科目の異なる複数の授業において思考力を高める授業展開を目標として定めた。

○　探究学習で得た知見を各教科の学習に生かすことができるよう「未来の山北高校を探究しよう」をテーマに、カタパルト株式会社の協力により職員研修を実施した。（１月５日）。

④　地域との協働による探究的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメント推進体制

○　授業改善のテーマを「生徒の思考力を高める授業展開」として校内研修を実施したところ、生徒自らがその意図を理解し、意欲的に学習に取り組む姿も見られた。

⑤　学校全体の研究開発体制について（教師の役割、それを支援する体制について）

○　組織再編を実施し、資源を生かしながら協働を通して、目的達成のために自らの意志を持って継続的に事業運営を行う学校組織を構築した。

○　定期的な事業研究会議を実施することで、コンセプトを共有し、各セクションの進捗状況の確認を行うとともに、学校運営協議会を有効に活用し、意見を取組に反映させた。

○　生徒を地域が育てる「チーム学校」という発想を地域の方々や山北町町議会と共有した。

⑥　カリキュラム開発専門家、地域協働学習実施支援員の学校内における位置付けについて

＜カリキュラム開発専門家＞

○　授業参観を行うことによって、単元による学習活動の展開への指導・助言を実施した。

○　学年会議、コンソーシアム連絡会議への出席や授業参観後の進捗状況等に関する協議に参加し、本事業全体の監修と教育課程全般について指導・助言を実施した。

＜地域協働学習実施支援員＞

○　校内の企画及び学年会議、コンソーシアム連絡会議等に参加した。外部人材、団体（学校関係、地域住民関係、企業関係）の活用に向けて連絡・調整した。

○　授業に参加し、学習に関わる「学びの場」を提供するための連絡・調整を行った。

⑦　学校長の下で、研究開発の進捗管理を行い、定期的な確認や成果の検証・評価等を通じ、計画・方法を改善していく仕組みについて

○　連携推進グループが研究開発を立案、学習支援グループが計画・実施に向けて調整・管理、キャリア教育グループが探究活動を生かした進路指導に連結させる指導体制とした。

○　学校を核とした地域協働活動に山北町とともに着手し、その充実化のために、外部の人材を活用した取組を推進し、改善につなげた。

⑧　カリキュラム開発に対するコンソーシアムにおける取組について

○　有限会社小田原ドライビングスクールの協力の下、学校設定科目「地域防災」などで活用するドローンについて操縦方法や法律的なルールを学ぶ授業展開を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、今年度の実施については見送りとした。

○　総合型地域スポーツクラブ松田ゆいスポーツクラブには、未病に関わる講演会の実施や、生徒の課題解決の設定から整理・分析に加わっていただき、探究活動へ協力していただいた。その他、山北町役場や山北町議会にも本校の取組を伝達し、生徒の考えた町の課題に対する施策を提言として町議会議員への発表を行った。

⑨　運営指導委員会等、取組に対する指導・助言等に関する専門家からの支援について

○　運営指導委員として、早稲田大学教職大学院客員教授羽入田眞一氏、山北町教育長石田浩二氏、OECD 日本イノベーションネットワーク事務局長小村俊平氏に委嘱した。

○　第１回「令和元年度の活動報告及び令和３年度の活動計画について」（７月 21 日）

・　新型コロナウイルス感染症感染拡大防止策として、神奈川県のガイドラインを遵守しながら、地域とともに、生徒の主体的な関わりを推進することについて協議し、広報活動と外部団体の設立に注力することを決定した。

○　第２回「令和２年度の活動報告及び令和３年度の活動計画」について（３月 12 日）

・　令和２年度研究開発完了報告書についての指導・助言をいただき、令和３年度の活動方針について確認した。

⑩　類型毎の趣旨に応じた取組について

○　コンソーシアム団体の協力により、森林セラピー、史跡巡検、農業体験及び生涯学習センターで地元食材、教材を使った体験学習など、山北町フィールドワークを実施した。

○　My プロジェクトに関わるフィールドワークでは、県西各市町の市役所及び町役場や近隣道の駅、飲食店等県西地域全体を学びの場としたフィールドワークを実施した。

○　地域課題の解決等の探究的な学びを実現する取組として、地域における地域ならではの

新しい価値の創造に向け、地域をよく知りコミュニティを支える人材育成を行った。

○　本校の特色ともいえる「スポーツの山北」の良さを継承した形で「未病」や「地域防災」の学びを通じ、高齢者比率４割の山北町の課題解決に取り組んだ。

○　１年生では山北町の現状理解と課題発見につなげる学習を行い、２年生では課題の解決方法をより実践的な「地域おこしプロジェクト」として深化させる学習を行った。

⑪　成果の普及方法・実績について

○　令和２年 12 月 17 日に２学年における探究学習コース別発表会を実施した。山北町議員、学校運営協議会委員、コンソーシアムに関わる方々など外部より 17 名が参加した。

○　令和３年３月 23 日、県教育委員会主催の県西地区探究学習に係る成果発表会において、地区内の高校を対象に、本研究の成果を代表生徒がポスターセッション形式で発表した。

○　令和３年２月４日に１・２年合同で、地域協働学習に関わる校内発表会を実施した。地域課題の解決に向けて、より実践的なプロジェクトである 12 チーム（各学年６チーム）による代表発表及び露木志奈氏（環境活動家）によるオンライン講演会（テーマ「今、世界中で何が起きているのか　～私たちだからできること～」）を実施した。

○　２学年の未病に関わる継続的な探究学習の取組については、令和２年 12 月にテレビ神奈川により報道された。

１１　目標の進捗状況，成果，評価　　＜添付資料＞目標設定シート

<u>目標（１）「山北高等学校を中心に、行政・町民・企業が一体となる」ことについて</u>

①　進捗状況

○　山北町町議会議員に授業及び発表会を参観する機会を設定し、生徒の活動内容を紹介するとともに、取組の概要を説明し、事業について理解を深めることができた。

○　国立教育政策研究所教育政策・評価研究部は、本校と協力体制にある山北町観光協会会長をはじめとする、同部が選出した本事業のキーパーソンにインタビューを行っている。このインタビューには本校職員も同席し、情報を共有する体制を整えた。また、同部には、生徒対象アンケート実施の際にも質問事項の選定などで協力をいただいた。

○　総合型地域スポーツクラブ松田ゆいスポーツクラブは、代表者が定期的に来校し、生徒への助言を行っている。特に、生徒の発案によって令和２年 12 月５日（土）に実施した、地域の子ども達を対象としたイベントにおいては、安全確保の指導や広報方法の指導なども含め、全面協力を得た。

○　山北町都市農村交流活性化推進協議会は、１学年フィールドワークについて、コース設定のアドバイスや説明への協力人材の紹介など行い、高校との連携協力体制が確立、今後のフィールドワークについても協力を得ることになった。

○　町の広報誌にフィールドワーク関連記事を掲載（令和２年 12 月号）した。また、活動内容を広報するため「学校たより」を作成し、町内全自治会に回覧（計３回）を実施した。

②　成果

○　生徒を対象に、継続して「地元への興味・関心及び探究的学びに関する意識調査」を実施した。地元（山北町）への興味・関心に関する項目では、肯定的な意見の伸びが鈍かったが、探究的学びに関する項目では着実に伸びを見せている。令和２年 12 月 17 日実施の２学年コース別発表会参観者アンケートで、概ね良い評価を得ることができたことも、生徒の探究的な学びへの意欲の高さを裏付けている。

目標（２）「『未病』、『地域防災』の二つの視点で、ＰＢＬを活用した『個人の成長』を求めるカリキュラムの開発研究」について

①　進捗状況

○　学校設定科目「未病」「地域防災」では、１学年時の総合的な探究の時間において向き合った地域課題についての学習を深め、課題を解決することで社会貢献となることを学び、それらの経験から、新たな着眼点を持つことを学習した。

②　成果

○　生徒は探究活動の成果発表会を通じて、情報や考えを伝えるだけでなく、データ等の根拠を示し、視聴者の理解を深めるプレゼンテーションスキルを獲得した。生徒は「未病」、「地域防災」の探究活動の中で、自分と異なる意見や発想や、異なる世代の受け止め方を学ぶなど、多角的な視点を身に付けたことにより、思考力、判断力、表現力をさらに向上させることができた。

③　評価

○　新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ＩＣＴを活用した事前学習等を進めたことにより、「未病」および「地域防災」等の履修対象学年に校内で９月と 12 月に行った生徒による授業評価アンケートでは、授業の在り方や学習の状況について、ともに高い評価の数値（７項目について肯定的評価が最低で 86％=12 月：問い「授業の中で『身に付いた』『できるようになった』と感じることはありましたか」、最高で 99％=９月：問い「授業で得た知識を用いて、自分の考えを持ったり、新しい問題に取り組んだりすることができましたか」）となっており、授業に対する充実感も高いものとなった。

目標（３）「Ｕターンを含めた地域で活躍し、地域を創生する人材の育成」について

①　進捗状況

○　町の魅力や歴史について、町や協議会と協力して授業を展開した。

・　１年生は、フィールドワーク等において山北町職員による説明や町の人々と触れあう学習活動により、自分と地域との関わりをより身近なものと考えられるようになった。

・　２年生は、My プロジェクトの授業の一環で、役場だけでなく商業施設や地域住民にインタビュー調査を実施し、地域課題を自分事として考えられるようになった。

②　成果

○　地域についての理解

・　実際に地域に足を運ぶことで地域への理解が深まり、その中で発見した地域課題に対して、高校生の視点からの解決策を提案することができた。町の病院施設やインフラ、防災に関するものなどで、中には町議会議員から好評を得たものもあり、実際に町の活性化に貢献できる可能性が十分にあると考えられる。

・　学校で実施したアンケート結果（添付資料「目標設定シート」１．アウトカムのｂ参照）において、「山北町での生活を希望する生徒」、「山北町に関係する就職を希望する生徒」、「山北町に貢献することを希望する生徒」の３項目において多少の増減はあるが、目標値を維持している。活動制限をせざるを得なかった状況下でも、生徒たちはフィールドワーク等を通じて山北町の人々や生活、産業などへの理解が深まったことに起因すると考え、そのうえで、生徒がより具体的に自分のできることを考えることができた。

③　評価

○　進路学習との連携による地域を創生する人材の育成

・　地域探究活動の中で、生徒の山北町への関心が高まったと捉えているが、今後、地域へ

の愛着をさらに育み、生徒が実際にキャリアを考えるうえで、山北町で就職したい、起業したいと思うなど、より具体的な成果が生まれるように取り組むことが課題である。

・　連携や探究活動を山北町だけではなく、足柄上郡（南足柄市を含む）へと拡大し、支援を含めた協力体制を構築していくことが課題である。

・　地域の中学生、高校生を中心とした世代は、東京や横浜など都会へのあこがれがあり、都会での進学や就職を考えていると思われる。そのため本校の取組は中学生には魅力的に映っておらず、入学志願者の増加に繋がっていない。本校の取組と地域への愛着について、いかに効果的に広報していくかが課題である。

１２　次年度以降の課題及び改善点

①　地域との協働体制について

○　コンソーシアム団体及びカリキュラム等開発専門家との協働体制の確立

・　新型コロナウイルス感染症拡大防止策の中での地域との連絡調整が課題となった。次年度は学校を支援し、自治体等を含めたコンソーシアム組織との連携を推進するための仕組みを町議会の協力により、外部に構築（以下、「山高支援組織」）する構想がある。

○　地域協働学習実施支援員を地域や生徒のファシリテーター等として一層活用することによる、地域の理解と協力の獲得。

・　山高支援組織によるコーディネートにより、周辺住民との交流及び学習の学びの場について理解･協力を得る。

○　入学希望者増加への取組

・　本校の探究活動におけるＰＢＬ型学習の効果により、進学、就職時において求められている資質、能力の向上が図られることや探究活動を通じて得られる効果、意識改革について広くＰＲする必要がある。

・　本校の取組が足柄上地区（南足柄市、山北町、開成町、松田町、大井町）全体の問題として捉えられるよう、各教育委員会、中学校等への働きかけ、ＰＲ活動を実施する。

②　ＰＢＬ型学習の指導について

○　生徒の「自分事化」へ向けて、職員のファシリテート能力のさらなる向上が必要である。

・　職員に対する校内研修会実施と外部研修会への派遣を実施したい。

・　事業に係る他県の発表会や県外視察等への職員の派遣、先進校の取組を吸収する。

○　地域企業や大学、個人事業主等との連携を推進し、互いに効果のあるものにする。

・　顔の見える関係構築を図るため、定期的に生徒発表会後の連絡・意見交換会を開催する。

③　カリキュラムの開発について

○　「未来探究」及び学校設定科目「山北」「未病」「地域防災」を核として、全教科で横断的でかつ探究的な活動を用いる手法を展開するなど、指導内容、指導方法を充実させることが必要である。

○　生徒が学習体験を自分事とし、学んだことを地域社会へ還元するなど実際的な活用を図ることができるようにすることが必要であり、そのために進路指導との一体化を図る。

【担当者】

担当課	高校教育課	ＴＥＬ	045-210-8254
氏　名	川端　麻穂	ＦＡＸ	045-210-8922
職　名	専門員	e-mail	kawabata.fp7c@pref.kanagawa.jp